1室/45 山王マンション リノベーション部屋の歴史

2003年、福岡初！山王マンション初！の賃貸リノベーションが始まりました。
当時はまだ「リノベーション」という言葉はなく、「再生デザイナーズ賃貸マンション」という造語で紹介していたそうです。入居者さんとともに変わりゆくお部屋、ビンテージビルディレクターの北嵜剛司さんにその歴史をお聞きしました。

ビンテージビルディレクターの
北嵜剛司さん

聞き手：
フツーのマンション住まい たま子

山王マンションでは、リノっしょしたところは原状回復せずにそのまま残し次の入居者さんに引き継いでいきます。

"山王マンション"

Iさん
夫婦

2007年に単身で入居なさったIさんは、ご結婚後お子さんも増えて新築マンションへお引越し。が、引っ越したマンションも、「自分が住みたい家に」とリノベーションなさいました。今でも可愛がってくれた入居者のおじちゃん、おばちゃんの所に遊びに来てくださっています。

Nさん

山王マンションでリノベーションの面白さにめざめ、違うテイストの部屋に住み替えたご経験もあるNさん。ご結婚後、新築マンションに引っ越すも、山王マンションの雰囲気がここにほしいと、私達にリノベをご依頼くださいました。今はイベントに参加いただいたり、お食事を一緒にしたりと交流は続いています。

INTRODUCE OF WALPA

「WALPA」と山王マンション。賃貸の価値を変える出会い。

《WALPA STORE 店主》濱本 廣一さん

賃貸マンションは自分で変えられない。これまでの賃貸物件はそんなイメージが強かった。しかし、そのイメージをすごい勢いで払拭しているのが「WALPA」という輸入壁紙専門店だ。

「WALPA」は2000年、元壁紙職人の濱本廣一さんが大阪で設立。東京、名古屋に続き2013年9月にオープンさせた福岡店が、ここ山王マンションにある。

山王マンションとの出会いを濱本さんはこう語る。

「渋谷の店にも福岡から見えるお客様がとても多くて、セルフリノベーションに興味のある方が多い土地だと認識していました。ネットで店を出す物件を探していて見つけたのが山王マンション。写真で見た時からもう、スケルトンになった空間の状態といい、コンクリート打ちっぱなしの天井の質感といい、すごく良くてね。実際に見たらこの建物の迫力にも圧倒されて、ここしかないと思い出店を決めました」。

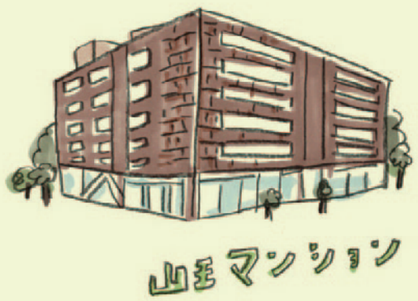
「WALPA」では海外の壁紙約3万点を扱い、福岡店でも販売している。DIY文化が盛んな海外の壁紙はデザインが多彩。店内の壁や天井、床、家具の豊かな表情を見ればその進化に驚くはず。賃貸物件に貼っても退出時にはきれいに剥がせる素材やノリ、道具類などもすべて揃っている。

しかも、こうした壁紙を自分自身で貼りかえられるよう指導してくれるのが「WALPA」の魅力であり新しさ。月2回行われている2時間ほどの壁紙貼り教室は毎回、自分らしい部屋づくりに憧れる人たちで賑わう。取材班も実際に壁紙貼り教室に参加したが、思っていた以上に作業は簡単で何よりも楽しい！

「壁の一面が変わるだけでも、部屋の雰囲気は大きく変わります。誰かを家に呼んで見せたくなるし、コミュニケーションの機会が増えると思います。壁紙そのものはネットからでも買えますが、その魅力や自由なアイデアは実際に店で見て体感するのがいちばん。自分で貼ると家も暮らしもずっと楽しくなりますよ」と濱本さん。家づくり、部屋づくりに感心のあるすべての方に見ていただきたい。

WALPA STORE FUKUOKA
WALPA STORE 福岡
【住所】福岡市博多区博多駅南4-19-5
山王マンション102号室
【電話】092-483-0518
【営業】10:30 ～ 18:00
【店休日】木曜日

OUTLOOK OF SANNOU MANSION



「リノっしょ」×山王マンションで見えた、新しい賃貸物件のあり方。

山王マンションは2014年で47歳。約10年前からのリノベーションを経て現在は31室のリノベートが完了している。

思えば2003年、右も左もわからないまま動き出した山王マンションのリノベーションプロジェクト。その試みは福岡市では初。スペースRデザインはリノベーションの先駆けであった。2007年、7人のデザイナーらと取り組んだリノベーションはそれぞれの部屋にこだわりとコンセプトがあり、従来の賃貸物件の印象を大きく塗り替えたといえるだろう。

単なるモデルルームなら物語はここで終わりだ。しかし山王マンションには入居者の存在が欠かせない。誰がどんな部屋でどんな暮らしをするのか。果たしてそれは心地よいものなのか。それは私たち自身にも予想がつかないことだった。しかし、私たちが想像していた以上に入居者の方々の発想は柔軟。こちらが提案するコンセプト重視の住空間とそこに込められた意図をそれぞれに解釈し、さらに自分らしさを加えながら暮らしを楽しんでいた。そんな入居者の姿を受けて思いついたのが、私たち管理会社と入居者がともに作り上げていくリノベーションシステム「リノっしょ」という発想だ。

前の住人が作り上げたデザインを新たな住人が受け継ぎ、手を加えて新しい空間を作り上げる。こうして住人たちは部屋に込めた思いをバトンのように次々と手渡していく。プライベートな住空間の一部を他人と共有するという住人同士の関わりも含め、「リノっしょ」はとても実験的な取り組みだ。

私たちはこうした取り組みがこれまでの閉じられた賃貸システムに風穴を開け、人と人とのつながりを生み出すものであると考えている。1つの部屋に少しずつ刻まれた様々な人のライフスタイルに共感し、受け取る。そんな暮らしの中でも、人と人とのつながりは育めるはずだ。

山王マンションでは今後も「リノっしょ」や山王リノベ文化祭などのゆるやかな交流イベントを通して、より開かれた賃貸マンションのあり方を楽しみながら探究していく。築100年になる頃、ここが多くの人のライフスタイルが垣間見える「ライフスタイルデパートメント」になっていたらうれしい。